



---

# 標準お手入れマニュアル

---

【フローリング・コーティング塗装】



## 木質フローリングのお手入れ(コーティング塗装)

本フローリングは天然木からつくられた木質フローリングです。表面はコーティング塗装(「クリアコート塗装品」や「ウレタン塗装品」など表面に被膜を張る塗装)によって仕上げられています。木質フローリングを永くご使用いただく為に、製品の特性をご理解いただき、正しくお使いください。

### <木質フローリングの特性と注意点>

木質フローリングは四季を通じて調湿しています。湿気の高い時期には空気中の水分を吸い乾燥した時期には水分を放出します。木質フローリングは四季を通じ環境に応じた呼吸(膨張・収縮)を繰り返しながら徐々に安定していきます。この木質フローリング特有の呼吸(膨張・収縮)は人工的な素材でつくられた床材では見られない特性です。

#### ●水分の対策

過度の湿気や水分はフローリングの膨れ・反り・変色など不具合の原因になる場合があります。屋外からの水や泥を持ち込むことの多い出入口やトイレなどの水廻りなどには、状況に応じてマットを使用するなどして過度の湿気や水分負荷がかからないように水分対策をとってください。また結露による水滴などに注意してください。観葉植物の鉢には水受け用の皿をご使用ください。

モップでの水拭きやポリッシャーなどによる水洗浄はお控えください。水分散布型の洗浄は不具合の原因になります。

#### ●変色(日焼け)の対策

フローリングは強い日差しや照明によって変色(日焼け)する場合があります。窓際などは変色しやすいのでカーテン・ブラインドで日差しを遮るなどの対策をとってください。

#### ●湿度のコントロール

フローリングは湿度や気温の影響を受けて膨張・収縮します。夏場の多湿期は膨張し、冬場の乾燥期は収縮します。夏場はフローリングが膨張し、反りや床鳴りが発生する場合があります。エアコンの「除湿」を使用するなどして湿度を下げるようにしてください。

冬場はフローリングが収縮し、継ぎ目に隙間が空いたりする場合があります。加湿器などを利用して湿度を補うようにしてください。また、ヒーターやストーブの熱気が直接フローリングにあたると過度に乾燥してひび割れや変色を起こす場合があります。これらの器具の前にはマットを敷くなどして保護してください。

#### ●ペット

ペットの排泄物や唾液がフローリングについた場合は放置せず、すぐに硬く絞った雑巾でふきとってください。汚れがとれない場合は部分的に中性洗剤を使用してふきとってください。

ペットのツメなどによりフローリングがキズつく場合があります。

#### ●キズ・へこみの対策

キャスター付き椅子の使用やテーブル・家具などの重いものを引きずるとキズやへこみの原因となります。フェルトパッドなどを使用するかマットなどを敷いて保護して下さい。

また、フローリング表面に粘着テープを使用すると表面の塗膜を傷める原因となりますので使用は控えてください。

#### ●各種薬品への対策

各種薬品やアルカリ性洗剤、灯油などはフローリングを変色させる場合があります。こぼした際はすみやかに拭き取るようにしてください。また化学雑巾も長時間放置すると変色する場合がありますのでご注意ください。

#### ●じゅうたんやカーペット

じゅうたんやカーペットを同じ場所で使用し続けると中に湿気がこもり、シミや変色の原因になります。定期的にはずしたり、位置を変更するなどの対応をお願いします。



●ビスや釘の使用の禁止

フェンス柵やドアストッパー、棚などの固定のためにフローリングにビスや釘を使用することは避けてください。特に床暖房が施工されている場合、フローリングの下の床暖房の温水パイプを破損させて漏水の原因になったり、電気経路をショートさせて火災の原因になることがあります。

ワックスがけについて

製品はワックスがけをせずにそのまま使用されることを推奨します。

表面に塗膜を貼る塗装にて仕上げているため、水分の対策など上記注意事項を守ってご使用いただければ特別なメンテナンスは必要ありません。

美観維持のためワックスを使用する場合は床用水性樹脂ワックスをご使用ください。

ただし、製品により光沢(ツヤ)が上がりすぎてしまったり、フローリングへの密着性が悪い場合があるため、目立たない場所で試し塗りをしてからご使用ください。

推奨ワックス：株式会社リンレイ 「ハイテクフローリングコート」シリーズ

「クリアコート塗装/ツヤ消し」と記載されている製品や「カスタマイズオプション」を利用して仕上げた製品は、光沢を抑えたツヤ消し塗装で仕上げられています。これらの製品にワックスを使用する際は、「ハイテクフローリングコート つや消し 40」をご使用ください。

